

小論文

【採点基準】

名大進学模試の小論文は、基本的に、「①設問の理解／②表記のしかた／③表現／④主張・論点」という4項目について、各問の配点を

- ①設問の理解 30%
- ②表記のしかた 20%
- ③表現 20%
- ④主張・論点 30%

の割合で配分したうえで、それぞれの項目ごとの評価を裁定し、その評価による得点を算出し、それを集計する。

評価は各項目「A とても満足できる／B やや満足できる／C 努力が必要である／D とても努力が必要である」の4段階とする。今回の問題における具体的な点数配分は、下記の通りである。

問1・問2 共通 配点表 (満点 問1 : 50点 問2 : 50点)				
	A	B	C	D
	とても満足できる	やや満足できる	努力が必要である	とても努力が必要である
①設問の理解 (30%)	15点	10点	5点	0点
②表記のしかた (20%)	10点	7点	3点	0点
③表現 (20%)	10点	7点	3点	0点
④主張・論点 (30%)	15点	10点	5点	0点

問3 配点表 (満点 100点)				
	A	B	C	D
	とても満足できる	やや満足できる	努力が必要である	とても努力が必要である
①設問の理解 (30%)	30点	20点	10点	0点
②表記のしかた (20%)	20点	14点	7点	0点
③表現 (20%)	20点	14点	7点	0点
④主張・論点 (30%)	30点	20点	10点	0点

評価の裁定方法

①設問の理解

- (1) 答案の文章量が「規定の字数」に達していないものについては、その文字数に応じてC評価またはD評価とする。ただし、この時点でのC評価答案は確定ではない。内容次第でD評価にランクダウンさせる可能性がある。
- (2) 「規定の字数」に達しているものは、「設問で示されている条件」「解答内容として求められる要素」に、その答案がどの程度適合しているかを勘案し、A～Dの評価を与える。前項(1)のC評価答案は、D評価になるかどうかを検討する。

「規定の字数」と評価について

今回の問題は、問1=200字以内、問2=200字以内、問3=500字以上600字以内という設問条件となっている。これをもとに、問1・問2については8割にあたる「160字」、問3は「500字」を最低限記述すべき分量であるとし、答案の文字数と評価について以下の通り定める。

問1・問2

99字以下の答案	D評価
100字以上159字以下の答案	C評価をスタートとし、D評価にもなり得る
160字以上200字以下の答案	内容を検討の上でA～Dの評価を与える

問3

249字以下の答案	D評価
250字以上499字以下の答案	C評価をスタートとし、D評価にもなり得る
500字以上600字以下の答案	内容を検討の上でA～Dの評価を与える

②表記のしかた

- (1) 「①設問の理解」と同様に、文章量が「規定の字数」に達していないものについては、その文字数に応じてC評価またはD評価とする。ただし、「②表記のしかた」についても、この時点でのC評価答案は確定ではない。後に示す「チェック項目」の該当数次第でD評価にランクダウンさせる可能性がある。
- (2) 「規定の字数」に達しているものは、答案の内容に応じてA～Dの評価を与える。前項(1)のC評価答案は、D評価になるかどうかを検討する。

チェック項目は下記の4点。

1	原稿用紙の使い方
2	段落設定の適切さ
3	句読点の適切な使用
4	誤字・脱字・衍字の有無

該当するものの数(ポイント)によって、

A	0	/	B	1～2	/	C	3	/	D	4
---	---	---	---	-----	---	---	---	---	---	---

と判定する。

ただし、該当するポイントが少なくても、誤字・脱字・衍字の数が多ければ、

～5	はB	/	～10	はC	/	それ以上	はD
----	----	---	-----	----	---	------	----

と判定する。

※問1・問2については書き出しの1マス目を空けていても、空けていなくても可で、チェック項目に該当しない。問3は、段落を分けて書くことを前提としているので、空けていないものはチェック項目に該当する。

③表現

- (1) 「①設問の理解」「②表記のしかた」と同様に、文章量が「規定の字数」に達していないものについては、その文字数に応じて、C評価またはD評価とする。この項目「③表現」についても、この時点でのC評価答案は確定ではない。「不適切と判断される表現」の数次第でD評価にランクダウンさせる可能性がある。
- (2) 「規定の字数」に達しているものは、答案の内容に応じてA～Dの評価を与える。前項(1)のC評価答案は、D評価になるかどうかを検討する。

「③表現」の評価は、「不適切と判断される表現」の数（ポイント）によって、

問1・問2については	A	0	/B	1～3	/C	4～6	/D	7以上
問3については	A	0～3	/B	4～7	/C	8～11	/D	12以上

とする。

④主張・論点

この項目は、問われていることに対する回答としての論理性（どのような論理によって回答しているか）と、論点（問われていることに対する回答の骨子が明確に抽出できるか）を評価する。論理性については、いかなる論理を構築していても、それが設問の答えとして不適切であれば、低い評価を与える。また、なるべくシンプルな論理で明快に回答しているものを最上級と考える。

この項目では、「規定の字数」に満たない答案についても、文章量によるマイナス評価をしない。

★問3では、冒頭の1マス目を空白にしない、解答全体を1つのかたまりとして記述しているなどの、「段落を設定する意図が感じられない答案」について、評価点を半分に減じる。